

旧橋は昭和9年に架設されましたが、21年が経過。老朽化および交通量増加による破損がひどく、危険な状態になったため、地元で「薬師橋改築期成同盟」を



柚木スキー場は、昭和11年に高知県唯一のスキー場として、当時

組織し、落成に至りました。吉野川にかかる橋では最初のワーレントラス構造を用い、当時では先進的な容姿を誇っていました。

大豊町合併70周年

地方の行政効率を高め、住民の福祉を増進するため、昭和28年に町村合併促進法が公布され、嶺東4村（東豊永村・西豊永村・大杉村・天坪村）が昭和30年3月31日に合併し、県下最大の面積の大豊村が誕生しました。

令和7年3月31日に合併70周年を迎え、これまでの大豊町の歴史を写真で振り返ります。

昭和43年5月
大豊村役場庁舎完成

昭和31年に最初の大豊村役場が建設されましたが、その後の急激な社会情勢の変化により、昭和43年5月8日に新庁舎が完成しました。

当時の落成式は、約400人が参加し、盛大に行われました。

その後この庁舎でおよそ半世紀にわたり、業務が行われることとなりました。



学校給食センターが
作業開始

当時、県下で16番目、給食人数では嶺西に次いで2番目の規模として、昭和47年4月3日に落成式が行われました。

毎日約1,700人以上もの給食が作られ、町内中学校5校、小学校12校へ配達されました。

献立の例としては、パン、牛乳、カレーシチュー、アップルシャーベットでした。



町民の皆さまには、輝かしい新春をお迎えのことと謹んでお慶び申し上げます。

さて、昨年は、町民の皆さまのご理解とご協力により、本町は着実に前進を続けることができました。これから町民の皆さまと共に、さらなる発展を遂げるべく、歩みを進めてまいります。

しかし、依然として、過疎・少子高齢化の進行、地域活力の衰退など、取り組むべき課題も山積しております。これらの課題を一つ一つ解決し、大豊町みらい創造総合計画に基づき、「未来へつなげる魅力あふれる町」「豊かで元氣な暮らし広がる町」を目指して、町民の皆さまに寄り添いながら、おおとよの未来に挑戦してまいります。

新しい年が皆さまにとりまして素晴らしい一年となりますようお祈り申し上げます。

大豊町長 下村 賢彦



恭賀新年



大豊町議会

〈後列〉 美濃 明男 山崎 悦子 森 一芳 山北 英二
 〈前列〉 重森 一宗 三谷 よし恵 小川 智也 藤丸 高德 上池 如夫 佐藤 徳治
 (副議長) (議長)